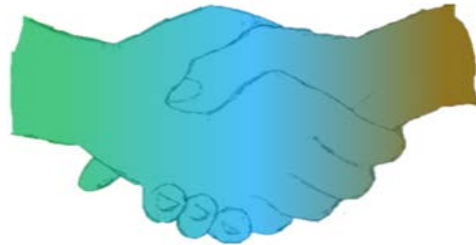


# 風見研究室ガイドブック 2020 ～Link to Earth Color～



# 風見研究室

## Link to Earth Color



社会問題の概念や深層心理について深く考え、  
地球の歴史を振り返ることで本質を知る。

そういった本質と向き合うことで  
地球本来の色を生かした、  
持続可能なまちを思い描く。





# 風見研究室

## Link to Earth Color



## 風見正三 Professor Dr. Shozo Kazami

宮城大学  
理事・副学長

- ・研究
- ・学術情報
- ・国際交流
- ・産学地域連携

図書館長

最高情報責任者 (CIO)

事業構想学群・事業構想学研究科 教授

博士 (工学) (環境理工学創造)  
経営学修士  
理学修士 (都市地域計画学修士)  
技術士 (建設部門: 都市及び地方計画)

### 【学歴】

日本大学大学院理工学研究科前期課程修了 (工学修士)  
英国ロンドン大学大学院 London School of Economics (都市地域計画修士)  
英国ロンドン大学大学院 Imperial College London (経営学修士)  
東京工業大学大学院理工学研究科環境理工学創造専攻博士後期課程修了 (工学博士)

### 【専門分野】

都市計画 地域計画 まちづくり コミュニティビジネス  
ソーシャルビジネス 持続可能な地域創造学

1960年生。日本大学大学院理工学研究科博士前期課程修了後、財団法人日本ダム協会研究部にて地域振興計画に関する調査研究業務等に従事した後、1987年、大成建設株式会社に入社。1991年、英国ロンドン大学大学院・London School of Economics (LSE) に留学し、都市地域計画学修士を取得。1992年、英国ロンドン大学大学院・Imperial College of London にて 経営学修士 (MBA) を取得し、「地球サミット」のロンドン部会に出席する。帰国後は、地域プランナーとして各地の地域活性化プロジェクトに携わるとともに、環境カウンセラーとしても活動。

2007年、東京工業大学大学院総合理工学研究科環境理工学創造専攻博士後期課程修了、原科幸彦教授の指導のもと「都市の環境持続可能性指標の開発に関する研究」にて、博士を取得。同論文に関連した学術論文にて、2006年度日本不動産学会・学会賞 (論文賞) を受賞する。

2008年4月から、宮城大学事業構想学部教授に就任し、全国の都市再生、地域再生、環境共生プロジェクトや都市政策、環境政策、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスに関する調査研究に携わる。

また、全国の地方自治体の総合計計画や都市計画等の審議会の会長を歴任し、環境省、経済産業省、内閣府等の政府の各種委員会の委員を務める。

2011年4月、宮城大学地域連携センター副センター長に就任。東日本大震災以降は、宮城県東松島市の被災した小学校を「森の学校」として再建する震災復興事業をC.W.ニコルとともに取り組む他、南三陸町における震災復興計画の策定や大崎町、亘理町、加美町をはじめとした様々な被災市町村での震災復興事業にも携わってきている。

2012年4月から2016年4月まで、宮城大学事業構想学部副学部長を2期 (4年間)、2016年4月から2020年3月まで、宮城大学事業構想学部長 (現: 事業構想学群長) ・宮城大学大学院事業構想学研究科長を2期 (4年間) 務める。

2017年、「森の学校プロジェクト」におけるコミュニティ形成の仕組みから「グッドデザイン賞2017」、日本計画行政学会計画賞を受賞。

受賞紹介ページ  
<https://www.g-mark.org/award/describe/46025>

2019年より、宮城大学理事・副学長に就任している。

2020年、「第26回 日本不動産学会会長賞 (業績賞)」、「日本環境共生学会会長賞 (著述賞・環境活動賞)」を受賞。

風見正三 公式ホームページ  
<https://www.shozokazami.com>

風見研究室  
<https://www.facebook.com/KazamiLab>

# 風見研究室メンバー紹介

## 3年 大友萌夏

出身：宮城県岩沼市

出身校：仙台三桜高校

所属サークル：なし

地元が震災で被害を受けたこともあり、復興まちづくりについて学びたいという気持ちがあり、風見研究室を志望しました。

自分の意見をしっかり伝えることなど、人としても成長する機会の多い研究室です。





## 3年 佐藤綾香

出身：宮城県登米市

出身校：佐沼高校

所属サークル：アカペラサークル

まちづくりに興味があり、地域イベントの運営などを通して地域の人と関わりたいと思い、風見研究室に志望しました。



## 3年 森田いづみ

出身：宮城県角田市

出身校：白石高校

所属サークル：宮城大学学生広報部

軽音楽サークル

風見先生に「せっかく好きになれたことは大事にするといいよ、直接的ではなくても将来やることのヒントはそこにあるよ。」とお話いただいて、自分の興味のあることを突き詰められるゼミの活動に惹かれ、風見研究室に志望しました。



## 4年 喜藤千夏

出身：宮城県大崎市古川

出身校：古川黎明高校

所属サークル：なし

高校生の時、風見先生の「地域計画」の公開授業を受けた際に、まちづくりや地域活性化の分野に興味を持ったことがきっかけです。



## 4年 渡辺亜沙人

出身：青葉区栗生

出身校：宮城野高校

所属サークル：なし

もともと都市論に関する本が好きで、「明日の田園都市への誘い」を読んだことがきっかけで風見先生を知りました。もっと様々な視点を学ぶため、風見研究室志望しました。





## 4年 鈴木大介

出身：仙台市泉区

出身校：泉館山高校

所属サークル：元大学祭実行委員会

バレーボールサークル

元軽音楽サークル

風見先生の行っているラジオ活動に興味があり、風見研究室に志望しました。

ラジオ活動を通して地域におけるメディア、情報、人の流れについて触れ、それらを学びたいと感じたことがきっかけです。



## 4年 高橋弦希

出身：宮城県栗原市

出身校：東北学院高等学校

所属サークル：サッカーサークル

まちづくりに興味があり、オープンキャンパスでうけた風見先生の講義に興味を持ったことがきっかけで風見研究室に入りました。





## 4年 木幡 真人

出身：桶谷町  
出身校：石巻高校  
所属サークル：所属なし

高校生時代に震災復興関係の活動に関わり、  
風見先生に出会ってまちづくりに関心を持ち  
風見研究室に入りました。

8人で切磋琢磨し、  
研究を行っています！<sub>7</sub>



# 大学院メンバー



宮城大学 大学院  
博士前期課程  
事業構想学研究科

鈴木 佳文



宮城大学 大学院  
博士前期課程  
事業構想学研究科

餅田 宏喜



宮城大学 大学院  
博士後期課程  
事業構想学研究科

東海林 伸篤



宮城大学 大学院  
博士後期課程  
事業構想学研究科

高橋 結

# 東松島市

## 森の学校プロジェクト



### 東松島市の概要

東松島市は仙台市の北東にあり、東北としては比較的暖かく雨の少ない気候です。また、桜の名所や丘陵地、松島の一角を占める風景などの豊かな自然を見るため、たくさんの観光客が訪れます。まちづくりの方針としては、「市民協働」の考え方を重視しており、行政と市民が目的を共有し、互いに連携・協力しながらまちの課題解決を行っています。そんな東松島では、高台移転や統廃合に伴って学校の再建を進めており、「自然とともに生きる・地域とともに生きる」をコンセプトにした「森の学校」を目指し、学校づくりに取り組んでいます。



### まちの課題

東日本大震災の津波によって、東松島市は壊滅的な被害を受けました。流されてしまった市の森とその自然をよみがえらせること、また、住む場所を移動してしまった地域の方を呼び戻すことが課題の一つとして挙げられていました。市内のある小学校もまた津波によって大きな被害を受け、高台に新しい校舎ができるまでには時間がかかるので、その間に子どもたちが仮設の校舎で過ごすことのないような取り組みや、震災で傷ついた子どもたちの心に希望を取り戻すための場所づくりを必要としていました。



### プロジェクトの内容

風見先生と作家のC.W. ニコルさんが共同で、東松島にて取り組んでいるプロジェクトです。ニコルさんが東日本大震災の被災地の子どもたちを、長野県にある「アフアの森」に招待した際に、たくさんの子どもたちが森での遊びを通して笑顔になった出来事をきっかけに、東松島にも「森の学校」を作ることになりました。プロジェクトの内容は、津波で流されてしまった野蒜地区の学校を「森の学校」として再建築するというもので、地域の森を活かし、自らの力で復興を成し遂げることを目的としています。

東松島が、地域にもともとある自然を活かしまちづくりを行うことによって、日本の未来の希望の地となることができます。また被災した子どもたちが、森の学校という豊かな自然の中で過ごすことによって、心や体に負った傷を癒し元気を取り戻すと同時に、日本の森の素晴らしさと、森とともに生きる大切さを教えることができます。



# 大崎市

## 大崎市都市計画審議会

### 大崎市の概要

大崎市は宮城県の北西部に位置し、人口は13万3千人(平成28年7月)の市です。平成18年3月31日、古川市・松山町・三本木町・鹿島台町・岩出山町・鳴子町・田尻町の1市6町が合併し、大崎市が誕生しました。南は黒川郡、宮城郡、加美郡、北は栗原市に接しています。大崎市は、奥羽山脈から流れる豊かな川によって形成された、広大で肥沃な平野「大崎耕土」を有しており、また東北でも屈指の米どころであり、大豆の一大産地ならではの発酵文化、そして地域文化の宝庫です。



### まちの課題

高齢者率が市全体で23.0%、高いところでは30%以上となり過疎化・高齢化の影響で集落の機能が低下し、地域社会の存続も危ぶまれています。そのため、協働や市民活動の活性化により、自主的にそれぞれが連携していくこと、地域全体で支えあっていくことが望まれます。また、豊富に存在する地域資源を多様なニーズに合わせて活用していく担い手育成が必要になってきます。



### プロジェクトの内容

大崎市都市計画審議会では、事務局からの進捗報告や、大崎にふさわしいコンパクトシティの実現に向けた審議が行われました。都市機能誘導区域、居住誘導区域の検討について議論が行われ、各委員からは議事に関わる意見はもちろん、風見先生の講演内容を踏まえた形で多岐にわたる具体的な意見が述べられました。また立地適正化計画に足りないピースは、“田園”であるとして、都市機能や居住を誘導し集約化をはかった上で、『美しい田園をどのように誘導するか』というビジョンを示し、産業・経済・農林が一体となった市政にしていく必要がある」と、活発な議論が展開されました。



# 風見ゼミと かかわりのある地域

風見先生が関わっている地域

ゼミ生が関わっている地域

## 大崎市

風見先生が座長を務められている大崎市立地適正化計画推進協議会が開催されました。大崎市総合計画が進んでいます。また景観計画検討会も大崎市で行われています。

宮城大学の講義で、コミュニティプランナーという、まちづくりの手法を学ぶものがあり、三年間岩出山にお世話になっています。最初の頃はフィールドワークや調査がメインで、それが進むと実際に企画・実行をして楽しく「まち」に関わっています。

## 加美町

風見先生は「加美町総合計画審議会」の会長として、加美町を「善意と資源とお金が循環する、人と自然に優しい町」を目指していろいろなアドバイスをしています。

今年度はゼミ生も審議会を傍聴させていただき、加美町への提案を行おうと取り組んでいます。

## 大和町

今年の大和町で行われる島田稲祭りでの企画や夏越の輪ぐりのポスター製作にかかわっています。

## 仙台市

風見先生が委員長を務める「仙台市まちづくり協働推進委員会」では市民活動との協働を仙台で進めています。

泉区に拠点を置く5大学が連携した組織「泉まちづくり同盟」では地域貢献を目指して活動しています。

## 白石市

2008年に「白石城下活性化計画推進会議」にて白石市の地域資源を活用した地域交流施設の計画に関する指導を行いました。

## 亶理町

風見先生は「亶理町総合発展計画審議会」にて委員長として総合計画の策定に当たられました。

## 登米市

登米市における再生可能エネルギー事業「宮城県登米市市民オーナー太陽光発電プロジェクト」をプロデュース。本事業の視察には元内閣総理大臣小泉純一郎氏も訪れました。

## 気仙沼市

八瀬・森の学校プロジェクトでは、気仙沼の地域資源である自然を体験できるモデル・プランを提案しました。

## 南三陸町

震災復興計画の策定における住民参加支援が行われました。

## 東松島市

「森の学校プロジェクト」は東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県東松島市で、津波の被害に遭った学校を森の中に再建するものです。

## 石巻市

プラスコイノベーションスクールにて起業家支援や講義が行われました。夏にはリボンアートフェスティバルも開催されます。

風見ゼミも8月にリボンアートフェスティバルで出店します。

## 利府町

利府駅前のtsumikiという施設で利府を盛り上げるためのミーティングを行っています。新しいイベントを作ったり、新しいPRポイントを作ったりとtsumikiでは新しく町を盛り上げていく企画がどんどん動いています。

## 富谷市

富谷市と連携して、東日本放送の「みやぎふるさとCM大賞」に応募する動画作品の制作に、去年と今年と関わりました。地域の魅力発信をテーマに、企画・撮影・出演・制作など0から作品づくりをしました

## 塩釜市

風見先生が会長を務められた「塩釜市海と杜の景観審議会」において審議を重ね「景観計画案」の市長答申が行われました。地域資源を活かした魅力的な景観をつくるまちづくりが進んでいます。



## 【活動のまとめ】

今年度は新型コロナウイルスの影響で、オンラインでのゼミとなりましたが、毎週熱い話が繰り広げられる、充実した前期の学びとなりました。

### 過去の疫病を学ぶ

風見ゼミでの最初の学びは、「過去の疫病」でした。疫病は100年間隔で流行した歴史があります。ペスト、コレラ、スペイン風邪など過去の疫病を学ぶことで、人々が社会をどう変化させてきたのか考えました。

この課題を通して学んだことは「歴史のつながり」です。過去によって今があること、そして、今は未来の為に行動しなければならないこと。歴史のつながり、という視点から物事を考えることを学びました。

新型コロナウイルスが流行する今の時代に、私達がすべきことを、考えるきっかけとなる学びになりました。



オンラインゼミの様子

### 幸福論

次の学びは「幸福論」でした。ヒルティ、アラン、ラッセルの三大幸福論をもとに、幸せについて考えました。

「自分だったらどんな幸福の指標を作るか」という議題では、「周囲に頼れる人がいるか」「自分で自分を愛することが出来ているか」などの意見がゼミ生から挙がりました。

幸福論を研究する社会人大学生の先輩や風見先生からも、幸福とコミュニティの関わりについてお話を頂き、幸せについての理解を深めました。

疫病に関する学びでは「歴史のつながり」を知りましたが、幸福論を学んだことで、そこに「幸せの視点」が加わったと思います。幸せな未来の為に今何をすべきか、どうしたら自分が幸せになることが出来るのか。「幸せになる」という目的を見失わずに行動したいと感じることができた学びになりました。



## スケッチ

「自分の心の中にある水面や湖をスケッチする」という課題が課されました。

スケッチは三者三様となり、それぞれの個性が出ていました。風見先生からは「絵は自分の潜在意識が出るもの」とのお話を頂き、自分が描いたものを通して自分自身と向き合うことに取り組みました。

普段絵を描くことはあまりありませんでしたが、絵を描いて、ゆっくり眺めてみると、自分で自分を見つめ直すことが出来ました。

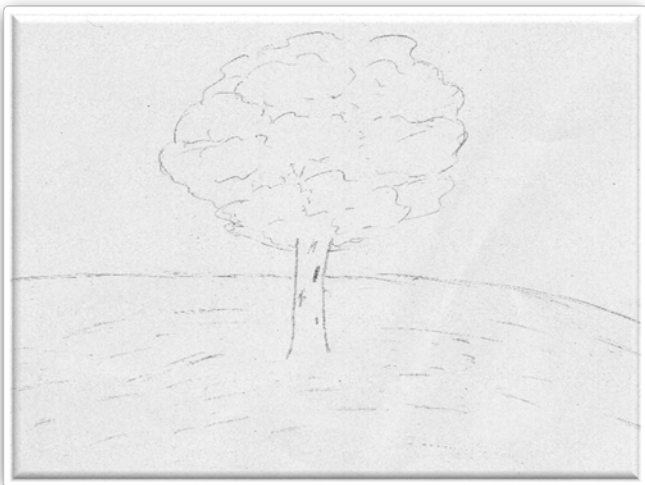
私達は普段、他者を通して自分を捉えてしまいがちです。だからこそ、自然の中で自分と向き合う時間が大切なのだと実感しました。

この学びを通して、自分の理想や願望など、「本当の自分」を少しでも認識することができたと思います。



作画：森田

いつも晴れやかな気持ちでいるための空と、周りに乱されないようにするための山に囲まれた環境に湖があるイメージ。



作画：大友

中心に自分の軸となる木があり、その周りに穏やかな水面が広がるイメージ。



作画：佐藤

純真な心の時に興味のあることや好きになれることに出会えると感じているので、純真な心を表した。



# サンクスワーク

最後は、「サンクスワーク」です。これは、普段の生活の中で「感謝」を見つけることです。風見ゼミでは毎週ゼミの冒頭に、1人ずつ「最近感謝したこと」を1分間でスピーチします。合わせて、1日5個、毎日感謝を見つけるという課題にも取り組んでいます。

初めは、感謝なんて当たり前になっていることだ、とっていました。しかしサンクスワークを行ってみると、意外と日常の中で感謝に気付いていないことが多いということを実感します。

私達は、感謝を意識して生活することで、**当たり前の有難さ**を感じるようになりました。誰かの仕事で生活が成り立っていることが分かると周りには感謝が溢れていて、それに気づき、感謝ができると、自分がまたひとつ綺麗になったように感じられます。

社会人の先輩からは、「**意図しないものへの感謝**」というお話を頂きました。嫌なことや苦しいこと、失敗など「意図しないもの」へ感謝によって、自分が行き詰った時の突破口が見つかることがあるそうです。例えば、1つの失敗を「成長の機会」と捉えたり、「この失敗で今後の大きな失敗が逃れられている」と考えれば、それは感謝になり、自分のものになります。

私達にとって「感謝」は、理想とする自分に近づくための、**考え方や内面の部分を見直す学び**になっています。

前期の活動を通して学んだことは、「**概念的な部分から本質を知ること**」です。

物事を広く概念的な視点から見ることで、**なぜその活動が必要なのか、今何をやる必要があるのか**が見えてきました。

自分の幸せを振り返ってみると、地球の歴史や過去の偉人の考えた論理があり、自分と地球との関わりを感じることができました。

今後も、目の前のプロジェクトや活動の根本には、どのような意図や目的があるのかを、広く大きな視点から考えていきたいです。

「**物事の本質を見ること**」と「**まちづくり**」を掛け合わせて、地球とリンクした社会を考えていきます。

# 3年生オンライン対談

3年生3人で、オンライン対談を行いました。

トピックは、

- 1) 風見ゼミはどんなゼミか
- 2) コンセプト” Link to Earth color” について
- 3) 高校生の皆さんに向けてのメッセージ です。



## 風見ゼミはどんなゼミ？

**森田：**  
研究対象が大きい。分野を限らず、概念とかを広く扱っていると思う。

**大友：**  
絞らずに大きい範囲から見てるよね。

**森田：**  
先生の専攻の、コミュニティビジネスとか社会的共通資本に限らず、広い視点で、いろんなアプローチから、自分たちに合った勉強をさせてくれる感じがする。

**大友：**  
幸福論とか、地域創生学類で学習しないようなことも、学んでいくうちに地域創生と繋がってくるのがわかって、面白くなって思うな。

**佐藤：**  
先生は顔が広いから、いろんな専門家の方の話を教えてくれる。先生の話聞くことで、私たちも視野を広げられるよね。

**森田：**  
たしかに。いろいろな地域の人と関わっているよね。

**大友：**  
あと、社会人の先輩がいることは大きい。知識の量が違うし、経験からフィードバックをもらえる。違う視点から、足りないものを補ってくれる。

**佐藤：**  
ペアレビューでの学習がメインで、自分の意見を述べるだけでなく、他の人の意見を聞くことも多くて、考え方を変えることができるね。

**大友：**  
全部肯定してくれるよね。「違う」って言わない。考えたことを受け入れてくれる環境が良いと感じる。

**森田：**  
あとは時間を決めて話すから、与えられた時間で、即興で話をまとめて話す力がついたかな。

**佐藤：**  
話すのが得意じゃないけど、いい訓練になっている。意見を認めてくれるから、自信をもって話しやすい。

**大友：**  
ほめるのが上手だよ。

**森田：**  
私たちが浅いこと言ってもプラスアルファのことで教えてくれるから、次からは深く考えられる。ほめつつも、アドバイスもしてくれるので素敵。成し遂げた仕事も多いから、事例と過程を教えてくれる。事例をもとに、先輩方の卒論をアドバイスしている先生を見ると、説得力があるな〜と思う。

**大友：**  
ちょっと違うかもしれないけど、精神的に自分の汚さを実感させられたかも。考え方、捉え方が…なんていうんだろう…(笑)

**森田：**  
先生や先輩方は、私たちにはない発想を持って、ハッとさせられることが多いよね。

**大友：**  
なんていうか、純粹だよ。

**佐藤：**  
子供のときの遊び心を忘れず、大人になってプロジェクトを成功させてるから、子供と大人のいいとこ取り的な？

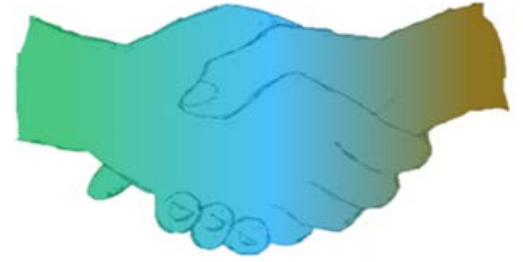
**森田：**  
「楽しそう」で始めることが多いよね。やりたいことをやっている感じ。

**大友：**  
「楽しいことをやろう」って言ってること多いね。

**森田：**  
全体的に少人数制だからアットホームで雰囲気がいいよね。

**佐藤：**  
先輩も社会人の方も優しいし、何かに熱中している人が多い。

## コンセプト” Link to Earth color” について



**森田：**  
Link to Earth colorって誰が出した案だったの？

**大友：**  
私が“Link to …”と“Earth color”をそれぞれ別で出して、後から繋げたんだよね。Link to …は、人・自然・社会とか全部を含めて色々な「繋がり」を大事にしたいという考えから。Earth colorについては、風見ゼミは「自然」がキーワードだと思って、でも直接的な表現じゃないものの方が良いなって考えてて思いついた。この2つを組み合わせて出来たんだよね！

**森田：**  
前に大学院の先輩が「アースカラーが意味する、地球本来の色ってどんなものだろうね」って言ってきて、確かに何だろうって考えたんだけど、私は“nature”とは違うイメージを持ったんだよね。アースカラーには自然だけじゃなくて「人」も含まれていると思う。人も地球の一部として生きていて、自然・人を含めて地球本来の姿だと思うんだよね。だからこそ、「地球本来の色って何だろう」って考えていくことには意味があると思う。

**佐藤：**  
アースカラーには人間も含まれていて、自然と人を合わせて考えているのが良いと思った。

**大友：**  
うん。自分には無い考え方で、すごく良いと思った。

**大友：**  
“Link to Earth color”ってすごく概念的なことだと思うんだけどさ、ゼミのコンセプトとして私達の活動にどう関わってくると思う？

**森田：**  
地域の活性化って、地元の人暮らしを豊かにするだけでなく、その土地にある自然を大切にしたい良い環境の中にあるものだと思う。だから、コンセプトにあるように、どんなビジネスやプロジェクトにも「つながり」を持って考えていきたいかな。

**佐藤：**  
前に風見先生が「地球を良くするために動くことは、まずは周りの地域を良くすること。つまりそれは地域活性化につながる。」というお話をしていたのが印象的だった。地球について考えることで、地球の為に良い事をしようって思うことが出来るから、それは直接地域の活性化にもつながると思う。

**大友：**  
地球規模で物事を考えるってことだね！

**森田：**  
壮大だね！

**大友：**  
私は、このコンセプトは「自分を磨く」という部分で関わってくるのかなって思う。ゼミでの課題にも自然と向き合うものが沢山あって、それに取り組む中で、自分の考え方が少しきれいになったり、純粋な気持ちになる感覚があったんだよね。自然にはそういう力があると思うから、自然を通して自分の考え方や物事の捉え方を見つめ直すことが、このコンセプトとの関わりかなと思った。

**森田：**  
3人とも考えが全然違うね（笑）

**大友・佐藤：**  
本当だね！

**森田：**  
聞いてて、そういう考え方もあるんだなって思った！



## 高校生にむけてメッセージ

**森田：**

私は、受験する時点では地域創生学類に全く興味がなくて。宮城大に入ってから宮城大学自体から地域視点だったことから、身の回りの地域の事業を勉強することを機に、「これからは地域が活躍するぞ」って思いながら事業をしている人が多くいることに気づいて、地域を学ぶことに興味を持ったんだよね。実際東京からUターンで活躍している人もいて、また、アフターコロナで地域の可能性を感じている人が多くいるので、時代に合った学びができるという面でも地域創生学類は面白いと思うし、地域を学ぶことを視野に入れてなかったらぜひ1度興味を持ってほしいなあと思う。

**佐藤：**

私は地元の地域ですっと育ってきたから、将来も地元で働き続けたいなと受験のとき考えていて、同じように地域に興味がある高校生に向けて言いたいことは、「地域に興味がある」というその考えの理由を今の時期に深掘りすべきということ。私は推薦入試で宮城大学に入学して、そのとき、志望理由書を書くことが大変だった。というのも、「なんとなくいい」と感じているものに理由付けすることが難かった。そのことを先生に話したら、「なんとなくいい」と感じる原因を自分の経験を思い出して考えると、これからしたいことも見えてくると教えられて、ぜひ推薦を受けようと思っている学生は今までのことを思い出して「なんとなくいい」の根底にあるものを見つけてあげるといいと思う。なかなか外に出られない状態だけど、頑張してほしい。

**大友：**

私は大学入って1年生の秋ぐらいに地域創生学類にいきたいって突然思っただ。理由の1つは地域創生学類があまり人気なかったから笑。人と違うことをしたいって思いがあったのかも。でも私も具体的にはどんなことをやりたいのかは決まらず。風見ゼミでは、地域創生に関することを広く学べて、そのときに自分が興味あることを見つけられる。ただやるだけじゃなくて、やりたいことであったり、やる意味を見つけられるところでは風見ゼミはいいなと感じている。ゼミの話に戻っちゃったけど、将来やりたいことがフワっとした人でもやりたいことが見つかるような大儀的に学べる講義やゼミがあるし好きにやらせてもらえる環境があるから、高校の時点でやりたいことが明確じゃなくても大丈夫だと思う。

**森田：**

確かに。私も受験期でも将来やりたいことがフワっとしてた笑。そんな中で「大学では英語も数学もおさらばしてやる。」って思って、受験のためだけの勉強になって今では結構抜け落ちている。でも実際は、経済学を学ぶのに数学が必要で、英語は周りで意外と話せる人多かったり留学行く人がいたりと話せなくて恥ずかしい思いもしたので、英語と数学は一生もんだと思ってちゃんと勉強するべきだと思う。地域興味なかった私が考え方変わって地域創生学類に進んだり、大学では視野が広がってやりたいことが次々出てくるから、高校の時点でいらないうって割り切るんじゃなくて、全部ちゃんと学んでほしいです。あと、受験期という人生の大事な時に頑張り切れなかった経験って大学でも癖づいてここぞというときに頑張らず妥協点とか探すようになってっちゃうから、今ちゃんと頑張り切してほしい。

**大友：**

私もそれは同感。私は高校の時、ほんとに部活しかしてなくて3年の7月で部活終わって、9月時点でD判定が出て焦って塾通いだして、追い上げたんだよね笑。でも、私は部活を頑張ってきたことが受験期のモチベーションにつながっていて、「部活よりは変じゃない」って思えば頑張れた。だから何か1つでも高校の時に頑張っておくことは大事だと思う。

**佐藤：**

私は推薦で入ったから、日々の勉強も大事だと思って、短期集中型だったからテスト期間は勉強頑張ったな。受験期に行きたいところが見つかっていけるよう、日頃から勉強しておくことは大事だと思う。

# Information



## Instagram

@kazami\_lab\_myu



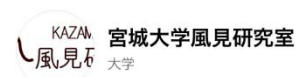
Shozo Kazami

---

## Facebook

“風見正三”

“宮城大学風見研究室”



## Radio

“風見研究室ラジオカフェ”

毎週火曜日20：30～

「エフエムたいはく」にて放送中

各SNSのDMにてラジオの感想・質問などのお便りお待ちしております！

## 【著書の紹介】

### 森の学校を創るー震災復興から発する教育の未来

東日本大震災の復興過程において高台移転・統廃合を経て再建した「宮城県東松島市宮野森小学校」。この再建計画において、宮城大学風見正三研究室では、基本構想・基本計画の策定や調査・検討に携わってきた。「森の学校」をコンセプトに、震災直後から行政、地域住民や子どもたち、専門家等をはじめとする多様なステークホルダーと共にすすめられた計画づくりのプロセスをまとめている。

○出版社：山口北州印刷株式会社

○出版年月：2020年3月30日

○ISBN：978-4-908536-29-8

○編著者：風見 正三（事業構想学群 教授）

○著者：佐々木 秀之（事業構想学群 准教授）



### 復興から学ぶ市民参加型のまちづくりⅡ ーソーシャルビジネスと地域コミュニティー

震災復興過程で立ちあがった7つのソーシャルビジネスモデルが、いかにして地域再生に貢献したのか検証した。

○出版社：創成社

○出版年月：2020年4月7日

○ISBN：978-4-7944-3208-7

○編著：風見 正三（事業構想学群 教授）

：佐々木 秀之（事業構想学群 准教授）

